

## 令和元年度 第2回下野市学校適正配置推進協議会議事録

日 時 令和元年10月1日(火) 午後3時～午後4時20分

場 所 下野市役所3階 教育委員会室

出席委員	会 長	小野瀬 善行	副会長	大塩 宗里
	委 員	蓬田 みどり	委 員	須藤 克己
	委 員	宮川 長一	委 員	坂口 修
	委 員	大栗 俊克	委 員	小林 亜友子
	委 員	川中子 俊光	委 員	高山 忠則
	委 員	小谷野 晴夫	委 員	飯島 珠美
	委 員	上野 保久	委 員	坪山 仁
欠席委員	委 員	稲葉 啓介	委 員	石田 陽一

議事録(概要)作成年月日 令和元年11月13日

議 事

- (1) 地域説明会の報告について
- (2) 今後の方向性についての協議(意見交換)
- (3) その他

## 【議事等】

- (会長) 第1回下野市学校適正配置推進協議会について、議事録の確認をお願いします。訂正等があればお願いします。(特になし)  
議事録はこのとおり承認し、市のHPにて公開させていただきます。  
議事に入ります。
- (会長) (1)「地域説明会の報告について」事務局より説明を求めます。
- (事務局) 資料に基づき説明を行う。
- (会長) 只今、事務局より説明がありましたが、委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。
- (委員 A) なぜ人数が少ないという理由で学童保育をやらないのか。細谷小学校の児童が石橋小学校に行くと、誰も知っている人がいない状況になります。一人で遊ぶのは難しいのではないのでしょうか。
- (事務局) 学童保育に関しては子ども福祉課の管轄となっており、学童保育の人数が2、3人になってしまい、利用者が減ったため細谷小学校の学童がなくなったと伺っています。
- (委員 A) それでは子どものためになっていないのではないのでしょうか。
- (事務局) 最初は誰でも環境に慣れるのに時間がかかります。
- (委員 A) 同じ学校の子どもたちの中で馴染むのと、違う学校の子どもたちの中で馴染むのでは全然違うのではないのでしょうか。
- (事務局) 同じ学校の方が慣れやすいということはとても良く分かるが、学童の設置要件や費用対効果の問題もあります。
- (委員 A) 固くやっつけては子どもたちのためになりません。極端に言えば、下野市民はそのために税金を払っています。
- (事務局) 子どもが馴染めないことを心配する気持ちも良く分かります。要件などを確認して、次回会議のときに報告させていただきます。
- (委員 B) 吉田東小学校、吉田西小学校も学童保育をまとめて行っています。
- (委員 C) 少なくとも学校の方にそのような報告は入ってきていません。  
国分寺小学校の場合は、学童に入りきれないことも多くあり、無理やり入る子どももいれば、幼稚園の学童保育に行く子どももいます。サービスの違いなどもあることから各家庭に選択していただいているという状況です。
- (会長) 各家庭のニーズがある中で、選択肢をどのように市として保証していくのかという課題も出てきますが、委員 A の発言のように子ども目線に立って、どのように議論を尽くすかということが求められていくのではないのでしょうか。  
事務局からも補足等あれば、次回の協議会でお願いします。  
続いて、議事の(2)「今後の方向性についての協議(意見交換)」について事務局に説明を求めます。
- (事務局) 資料に基づき説明を行う。
- (会長) 只今、事務局より説明がありましたが、委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。
- (委員 D) 先日の地域説明会で発言して頂いた方のお子さんは、集団に馴染みにくい児童でした。大きな集団にいると自分が出せない、言葉が発せられないとい

うことで、幼稚園のときから非常に心配をされて細谷小学校に入学してきました。2年生になってやっと、自分から手を挙げて発言するようになり、徐々に自分の内面を表せるようになってきました。

事務局の説明のとおり、これからの時代の子どもは、自分の考えをしっかりと持って自分の課題に向かって突き進んでいかなければなりません、まずはその前提となる自分の考えをしっかりと持ち、それを表せるようになる必要があります。細谷小学校が、少しずつ歩みを進めていく子どもたちの受け皿となっていることは確かです。

途中転学の児童も数名います。大規模校、中規模校でうまく適応できなかったという理由で長く不登校になっていましたが、4年生になり、勉強がしたいからということで細谷小学校を選んで通学しています。今では6年生になり、学校を引っ張るような立場で頑張ってくれています。

夏休みの後半ということもあり、地域説明会に参加できなかった保護者の方も多くいたため、9月の全校授業参観の折に、地域説明会の簡単なお報告をさせていただきました。非常に短い時間だったため、意見をいただくことができなかったのも、現在、アンケートを取っています。

細谷小学校に来る前の段階でつまづいてしまい、学校が怖い場所になってしまったお子さんの保護者の意見では、小規模校でよかったというものが多くありました。一方で、少人数で温室のように育てきて、中学校に行って適応できるのかが不安であるという意見もありました。保護者の方は一生懸命考えて、悩んで、子どもたちを送り出してくれているということを実感しました。

(委員 A) 自分の息子が細谷小学校に通っていたが、良い思いをしていません。学校が少人数だから、自分の子どもは入学させたくないと言っています。

(会長) 確かにそのような側面もあります。それも含めて、どのように意見を集約するかが大事になってくるのではないのでしょうか。他に委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。

(委員 E) 小規模特認校が許可される条件や補助金等はあるのか教えてください。

(事務局) 小規模特認校を導入する条件はありません。市独自の判断で導入しています。国からの補助金もなく、市の負担で行っています。

(委員 B) 市内の小規模学校であった国分寺西小学校が統廃合され、南河内地区も吉田東小学校、吉田西小学校が義務教育学校という形で統合されてしまうと、小規模特認校として運営できるのが細谷小学校だけになってしまいます。下野市は、大規模校や中規模校で適応できない子どもに対して、どのように対応するのかを考える場合、良い点や悪い点様々な意見があると思うが、市内に1校は残すべきではないでしょうか。

(委員 F) 細谷小学校の2年生は、1人だけが地元の子で4名は他の地域から通っています。小規模特認校の制度ができたことにより、細谷小学校の児童数が保たれています。児童数は年々増えてきているが、小規模特認校の制度がなければ、細谷小学校はなくなってしまっていたのではないのでしょうか。小規模特認校を続けてきたおかげで人数も増え、地元に住んでいる子どもたちが細谷小学校に通うことができます。また、小規模特認校のおかげで他の地区の子どもたちとも触れ合うことができ、学校が活性化してきました。

生きる力については、人数が少ない中でも、様々な行事をとおして、低学年の児童が高学年の児童の姿を見て、自分たちが高学年になったときに活躍したいという気持ちが湧いていると感じられるので、子どもたちが自分で考えて行動し、生きる力を見出すことのできる学校なのではないかと考えています。クラス分けができないというデメリットもありますが、世の中には様々な子どもたちがいるので、子どもたちの未来において大人に何ができるかを考えたときに、どんな子どもでも活躍ができる場所が下野市内にあるということが非常に大切なのではないのでしょうか。

(委員 G) 小規模の小学校から大規模の中学校に入学してきて適応できないということはほとんどありません。逆に大規模の小学校から入学してきて不適応を起こす場合もあります。その子どもの状況によると思うので、一概には言えないと思います。

(委員 H) 昨年度、細谷小学校を卒業した中学生に追跡調査を行い、非常に肯定的な意見をたくさんいただきました。大規模校にメリットとデメリットがあるのと同じように、小規模校にもデメリットもあればメリットもあります。できないことを探すのではなくて、人数が少ないからこそできることを探しながら学校経営をしてきました。少人数が必ずしも良くないわけではありません。

(委員 I) 現実として、細谷小学校には50名程度の児童が通っており、小規模特認校制度を利用している児童は何かしらの事情があってこの制度を利用していることが多いです。今後人数が増えることを想定した場合、人手が不足してしまうので、市も予算等の対応を考えていかなければなりません。

国分寺西小学校の児童が国分寺小学校に入ってきて、これまで、いじめや不登校の問題は全く出ていません。少人数の学校から600人の中に入ってきて、子どもはすぐに馴染むことができます。PTAからは、子どもは馴染めるが、親が馴染めないという意見が出ています。今後、細谷小学校の人数が増えなかった場合、大規模な学校とのアクセスをしっかり持って、時間をかけて子どもたちを送り出してあげなければなりません。

(副会長) 適応、不適応の問題が話に出たが、私は幼稚園に関わっていて、子どもたちの強さに驚かされました。0歳児から2歳児までは自分の世界で生きているが、3歳児になると集団の中に入っていくことになり、泣き叫ぶ子どもが多くいます。これはその子にとっての不適応であるが、少し時間が経てばそれがなくなってきます。小規模校から大規模校に行く場合にも同じようなことが起こる可能性はありますが、子どもたちの強さを信じてあげたいという気持ちもあります。しかしながら、全て信じ込んでしまうとかわいそうな子も出てきてしまうことも事実です。そのときに人数の少ない学校も選べるというゆとりも持っていなければなりません。

小規模特認校に関する新聞の切り抜きの資料を読んだが、メリットが読み取れなかったので、教えてください。

また、複式学級がなぜいけないのかという保護者に対して、複式学級のデメリットや設置基準、基準の設定方法などを説明できるようにしておかなければなりません。

(会長) 資料については(3)「その他」において扱う内容となるが、ここで事務

局より説明を求めます。

(事務局) 資料に基づき説明を行う。

(副会長) 新聞記事から、校長先生が必死になって学校を守ろうと頑張っていることが伝わってきます。細谷小学校にも頑張っていたきたいと思います。

(会長) 続いて、(3)「その他」に移ります。事務局より説明を求めます。

(事務局) 新聞記事にある小規模特認校の成功例に関する映画を、細谷小学校の学校祭で上映するという事なので、次回以降の会議で共有していきたいと思えます。

(会長) 他に委員の皆さまからご意見等がありましたらお願いします。

(委員 B) 先ほど委員 D より、地域説明会に参加されなかった保護者へアンケートを取っているという話があったが、結果を共有することは可能でしょうか。

(委員 D) 次回、まとめて委員の皆さまにお示しします。

(事務局) 本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後4時20分閉会。